

意思決定によって損益を被る人間の特定性とリスクのある行動に対する抵抗に関する研究

1250506 藤本亜子

指導教員 日道俊之

研究背景

援助の意思決定において援助対象に対して利益となる場面において援助対象に関する情報の特定性（明確さ/参照グループのうちの人の割合）の高さが意思決定に影響を与えることが示されている。一方で、リスクのある意思決定下において検証されていないため研究する意義があるといえる。また、援助行動は他者のための意思決定として取り扱われることもあり、自己選択よりも特定性の影響や社会的価値の影響が出やすいという先行研究もあったため、様々な場面で検証できるか調べる必要がある。

研究目的

本研究の目的は、他者のための意思決定に対して損益を被る対象の特定性がどのように影響するかを検証することである。そのために、「他者のための意思決定をする場合、意思決定の対象となる人間の特定性が高いと、リスクテイクな選択を回避する」という仮説を検証した。

調査・分析方法

qualtrics でウェブ調査を行った。参加者を2つのグループ（個人グループ/集団グループ）に分け、意思決定による対象の損益についてそれぞれ特定性の高い情報と特定性の低い情報の記載されたシナリオを読んでもらった。また、選択肢の社会的価値が異なるシナリオを3つ用いた（リスクテイク/リスク回避/中間）。その後、シナリオ上の相談者のための「他者のための意思決定」、「シナリオ上の個人・集団に対する共感の度合い」、探索者が相談者の立場である場合の「自己選択」を回答してもらった。

分析結果

特定性（高い/低い）と他者のための意思決定（リスクテイク/リスク回避）のカイ二乗分析を行った結果、リスクテイクな選択が社会的価値の高い選択とされるシナリオにおいて特定性と意思決定のカイ二乗分析より、特定性が高くなるとリスク回避な選択を取る傾向が支持された。他のシナリオについてはそのような関連はみられなかった。

考察・結論

リスクテイクシナリオにおいて仮説は支持されたが、その他のシナリオでは支持されなかった。このような結果になった理由として、他シナリオと比べてシナリオ上の状況や個人・集団の損益の記述の仕方によりリスクを感じやすく、リスク回避的になったためであると考える。